

国際日本 研究センター

International Center
for Japanese Studies

NEWS LETTER ニューズレター

東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies

<http://www.tufs.ac.jp/common/icjs>

2013.06 No.

11

・国際シンポジウム開催 International Symposium.....	P1
・対照日本語部門 研究会報告 第9回研究会 The 9th Research Seminar	P1 ~ 2
・映像教材『瀬戸内のシマグチ』製作と鹿児島県奄美大島報告会 Production and Preview of 'Setouchi no Shimaguchi' held in Amamioshima, Kagoshima Prefecture	P2
・2013年度 各部門方針 Divisions Policies in AY2013	P3
・各種行事レポート・活動報告(3月~5月)・ジャーナル『日本語・日本学研究』論文公募のお知らせ Other Reports・Activity Report・Call for papers "Journal for Japanese Studies"	P4

国際シンポジウム「理解・産出における母語の影響への取り組み」開催 2013年3月16日(土) International Symposium "Influence of Mother Tongues on Understanding and Production" Sat. Mar. 16, 2013

国際日本語教育部門主催の国際シンポジウムがアゴラ・グローバルに於いて開催された。これは本部門の3年プロジェクト「日本語学習者の母語・地域性を踏まえた日本語教育研究—国内外の日本語教育研究機関との協働的研究—」(2010年度~2012年度)の成果発表であり、対象言語であるフランス語、タイ語、英語、アラビア語、中国語の担当者及び特任研究員により各々研究発表が行われた。秋廣尚恵氏(エクス・マルセイユ



【秋廣尚恵氏】

大学、本センター特任研究員)は、フランス語母語話者による接続助詞「し」の誤用例を例に、従属節と主節の論理的関係が明確であるフランス語の母語話者にとって、談話文法的な機能を果たす「し」節の誤用が多いことを指摘し、レベル別の日本語学習者への導入方法を提案された。タサニー・メータービスィット氏(タマサート

大学、本センター特任研究員)と鈴木美加氏(本学教員、本部門メンバー)は、語彙学習では語の効率的な習得と効果的な技能への活用が重要であるとし、タイ人中上級日本語学習者の語彙学習教材「処理短」(対象語と共起しやすい語句や表現をセットで学習する教材)使用の結果に見られる学習者の語の理解における傾向と、教材の有用性について報告された。キャロライン狩野氏(本学教員、本センター連携研究員)は、望月圭子氏(本学教員、本部門メ



【タサニー・メータービスィット氏】

This was the result presentation of the three years project entitled 'Japanese Language Education Research based on Learners' mother Tongues (English, Chinese, French, Arabic, and Thai) and Regional Differences.' The presenters and titles, based on the subjects of research, were Hisae Akihiro, Aix-Marseille University, France 'Thinking of Introductory Method by Examples of Misuse of a Particle 'Shi' by Native French Speaker', Tasanee Methapisit, Thammasat University, Thailand and Mika Suzuki (TUFS) 'Activating Learners' Knowledge of Vocabulary and Textbook for Vocabulary Study: By Focusing on Thainese Advanced Learners of Japanese', and from TUFS; Caroline Kano, Mathew Miller, Keiko Mochizuki 'Language Education for English and Japanese based on the Bidirectional Misuse Corpus for Japanese-English', Eiko Sakaedani and Ryuko Taniguchi 'Pragmatic Transference of 'ma ʃ li f': By Focusing on Native Arabian Speaker' and Noboru Oyanagi 'Patterns of Misuse on Connecting Two Sentences based on the Japanese Learners Corpus: In the Case of Native Chinese Speaker and Native English Speaker.'

(Ryuko Taniguchi)

ンバー)を統括者とするウェブ用「日本語・英語・中国語相互学習者作文コーパス・誤用コーパス」のうち、英語学習者誤用コーパスを分析、前置詞に関する英語学習者の誤用は*in← on、*in← at、*at ←inの順で誤用が多く(誤用率は44.7%、33.5%1、1.1%の順)という結果であった。さらに、佐野洋氏(本学教員、部門メンバー)からは、辞典からの検索方法や種類(エラー箇所、エラーの種類、学習者の属性、学習歴など)、研究への応用などについて説明があった。榮谷温子氏(本センター特任研究員)と谷口龍子(本学教員、本部門メンバー)は、アラビア語のエジプト方言「マーレッシュ」の語用論的機能を分類した後で、日本語学習者の転移を予測し、談話完成タスクの結果について発表した。小柳昇氏(本センター特任研究員)は、日本語学習者言語コーパスから中国語母語話者と英語母語話者に見られる2文の接続に関する誤用の類型を分析された。誤用を同分野間の誤用(「*行けば←行くとすれば:条件←条件」のように機能が同じ表現の誤用)と異分野間の誤用(「*転びましたが←転んだので:逆接←原因」)に2分類し、中国語母語話者の場合、「列挙・継起」では異分野間の誤用が多く、その中でも特にテ形接続・中止法の誤用が多く、英語母語話者では、「時」に関する同分野間の誤用が多いと報告された。当日は教員、学生を併せて50名近くが参加し、活発な質疑が交わされた。複数の言語研究による言語教育のための合同研究発表は、本学ならではの特徴であり、有意義なシンポジウムであったと思う。(谷口龍子)

対照日本語部門 研究会報告『外国語と日本語との対照言語学的研究』第9回研究会 2013年3月9日(土) The 9th Research Seminar "Contrastive Study for Japanese and Other Languages" Sat. Mar. 9, 2013

佐野氏はまず、家電製品取り扱いマニュアルの文章の分析から、説明文書の分かり易さを定性的に分析して、文章改善の効果を定量的に計測した事例を紹介してくださった。次に、日本語の文法枠組みを意識させることで英作文の技能を向上させる試みのいく

つかのトピックを取り上げ、母語の文法システムの明示的な解釈意識が必要なこと、またその意識化の際には、構造論的な文法説明用語よりも、もうすこし認知的に一般化された概念用語が適切であることを述べられた。

石井氏からは、ポーランド語の最近の動向について、「1.挨拶言葉の変化」、「2.呼びかけ表現の変化」、「3.次末アクセント規範の今昔」、「4.前置詞の選択をめぐる議論」、「5.若者言葉の広がり」、「6.誤用の広まり」、「7.新しい統語法」という7つのトピックに基づき、興味深い現象を紹介いただいた。ポーランド語の豊富な実例を元に、言語が語彙も文法も含めていかに時代の流れとともに変化するかという点についての、本研究の鋭い観察眼からの指摘は、日本語の分析や、日本語と外国語の対照研究において、常にそのような言語の時間の推移に伴うダイナミズムを考慮する必要があることを示唆する、刺激的な内容であった。



佐野洋氏



石井哲士朗氏

鷲尾氏の講演は、言語研究に携わる諸分野がいわば言語別の縦割りになっている現状に鑑み、近代国語学史上の著名な文法学者の文法理論を言語学史との関わりからとらえることにより、国語学史と言語学史を統合したいわば「グローバルな言語学史」という視座が生まれ、近

日時：2013年3月9日(土) 13:50～17:30

場所：東京外国語大学語学研究所(研究講義棟4階419号室)

発表者・講演者と題目：

佐野洋氏(東京外国語大学) 研究発表「日本語枠組みから作文、英作文を学ぶ」

石井哲士朗氏(東京外国語大学) 研究発表「世の中が変わる、言葉が変わる」

鷲尾龍一氏(学習院大学) 講演「対照言語学事始め」

代国語学史における文法論や文法用語に新たな位置づけや意義を与えることが可能になるという、非常に示唆に富んだものであった。近著の『日本文法の系譜学～国語学史と言語学史の接点～』(斉木美知代・鷲尾龍一著、開拓社、2012年)の内容紹介を兼ねたこの講演は、対照言語学が複数の言語の多様性の背後に普遍性を見出す可能性があることを示す、貴重な講演であった。

研究会には、本学教員・大学院生・学部学生のほか学外の方々も含め20数名の参加者があり、活発な質疑応答や意見交換が行われた。

(三宅登之)



鷲尾龍一氏

Ryuichi Washio (Gakusyuin University) "Learning English Composition based on the Structure of Japanese"

Tetsuhiro Ishii (TUFS) "the World Changes, and Language Changes" **Hiroshi Sano** (TUFS) "At the Beginning of Contrastive Linguistics"

In this seminar of "Learning English Composition based on the Structure of Japanese," Prof. SANO (TUFS) introduced some examples that he quantitatively measured the results of composition improvement, with demonstrating how instruction manuals of consumer electronics are understandable by showing his qualitative analysis of these manuals. Prof. ISHII (TUFS) showed in "the World Changes, and Language Changes," the dynamism of language with a chronological transition, by showing the current issues of Polish. And the lecture of "At the Beginning of Contrastive Linguistics," Prof. WASHIO (Gakushuin University) proposed a new perspective for the study of grammar or grammar terms from the viewpoint of "Global History of Language," in which history of language and history of linguistics are unified.

(Takayuki Miyake)

映像教材『瀬戸内のシマグチ』の製作と鹿児島県奄美大島での報告会を開催 2013年3月2日(土) Production and Preview of 'Setouchi no Shimaguchi' held in Amamioshima, Kagoshima Prefecture Sat. Mar. 2, 2013



瀬戸内町のみなさんとDVDのダイジェスト版を鑑賞する

社会言語部門では、「日本語の多様性を探る」という部門のテーマのもとでの事業の一つとして、奄美大島瀬戸内町で言語文化の伝承活動の研究を行って

いる。奄美方言はユネスコの「危機言語」の一つとされている「奄美語」の一つである。社会言語部門では奄美大島、瀬戸内町で、言語調査、伝承活動の調査を行う中で、話者が少なくなっているこの言語を記録し、伝承活動での教材にも使える『瀬戸内のシマグチ』を製作、刊行した。これは、博報財団の助成を受けたもので、地元の方々と『瀬戸内のシマグチ』編集委員会を立ち上げ、出演やさまざまな協力を仰いで、企画、編集を行った。奄美語、シマグチと一口に言っても、地域によって語彙、発音、アクセントなどが異なる。今回のプロジェクトの地元である瀬戸内町の中でも、「島」ではなく「集落」を意味する「シマ」を冠して呼び習わされる「シマグチ」は、「シマ」ごとに微妙に異なり、地元ではその違いは認識、意識されている。今回のプロジェクトでは、瀬戸内町でも54ある集落のうちの5つを舞台に、それぞれの地域ごとに、その集落の方を中心に原案の作成と撮影を行った。買い物、図書館での会話など、実際に使われる状況の下での会話と、数え方、動詞などの基本語彙、そして、言葉や生活について自由に話してもらったものなどを撮影、編集し、

120分の映像のDVDを製作した。今回は1000組をプレスした。また、映像の中で語られているものを、仮名での表記に限界があることを理解しつつも、学習者の便宜のために書き起こし、

それに共通語訳をつけたものを冊子とした。このほかに、奄美の島唄、伝統芸能「諸鈍シバヤ」、「島口ラジオ体操」なども収録されている。教材として複製しやすいように、ページごとに取り外してコピーができるような冊子形態となっている。この冊子は400部制作し、瀬戸内町の小、中学校、各集落や関係者、研究者、そして関西、関東の「郷友会」などに配布している。

また、奄美大島瀬戸内町で『瀬戸内のシマグチ』完成の報告会を国際日本研究センター、『瀬戸内のシマグチ』編集委員会の共催で行った。報告会には国際日本研究センターからも5名参加し、DVDの試写会と前田センター員による報告、説明が行われた。その後開かれた懇親会では、センター関係者と地元の編集に携わった方々、DVDにご出演くださった方々との交流が行われた。

その時の様子は、瀬戸内町立図書館のブログ <http://higyajiman.amamin.jp/c8832.html> でみることができる。

(坂本恵・前田達朗)



製作の過程を説明する前田達朗氏



As the Sociolinguistic Division's projects, we have published a set of textbook of *Setouchi no Shimaguchi*, in cooperation with local members of Production Committee, sponsored by Hakuho Foundation. Amami language is designated as one of the endangered languages in UNESCO's Atlas. As for language transmission activities, we recorded some colloquial expressions, basic vocabularies and ordinary conversations, then edited, reproduced into 1000 set of DVDs and 400 copies of textbooks. It was distributed to the people in the areas and to the Amami communities in Kanto and Kansai. Five ICJS members visited and co-hosted the 'DVD preview' held in Setouchi-cho, Amami on March 2nd. Assoc. Prof. Maeda, a member of the Division, provided a project report, the viewing of digest version of DVD was warmly accepted by the casts, production crew and local audiences. See also the details: <http://higyajiman.amamin.jp/c8832.html> (Megumi Sakamoto, Tatsuro Maeda)

2013年度 各部門方針 Divisions Policies in AY2013

国際日本語教育部門

International Japanese Education Division

今年度より、佐野洋先生(総合国際学研究院教授)にメンバーとして加わっていただき、今後はウェブ教材やウェブ辞典の構築、ならびにウェブ上の公開に力を注ぎ活動を行う。具体的には、これまでに作成されたウェブ日本語誤用辞典、英語誤用辞典を充実させるとともに、日・中・英複合動詞事典の構築を計画している。また、3年プロジェクト(2010～2012)「母語・地域性を踏まえた日本語教育研究―国内外の日本語教育研究機関との協働的研究(英語、中国語、フランス語、アラビア語、タイ語)」の研究成果として論文集をウェブ上で公開する。さらに、これまでの言語研究と教育シリーズに引き続

き、文法・語用と教育シリーズ(仮称)として講演会や研究会を数回開催する予定である。7月24日、25日にはUCLAの岩崎勝一教授を迎え、統語論と語用論の両領域からの言語分析についてお話しいただく。フランス語・アラビア語と日本語の対照研究、日本語教育への応用についても統語論と語用論の両面から分析を試みる。タイ語母語話者に対する語彙学習教材の作成・使用とその分析も継続する。

国内外の日本語教育事情調査データベースは、すでに5月1日現在、交流協定校を中心に21か国・地域43校分のデータがウェブ上で公開されているが、調査は今後も引き続き行われ、データのさらなる充実を目指す。調査分析の結果は国際日本研究センターのジャーナル『日本語・日本学研究』で報告される。(谷口龍子)

From this year, we have a new member, Prof. Sano, we plan the followings: 1) Completing the website dictionaries for Japanese and English misuse Corpus and others. 2) Publicizing on a website articles of the three year project as 'Japanese Language Education Research based on Learners' mother Tongues (English, Chinese, French, Arabic, and Thai) and Regional Differences.' 3) Organizing seminars and lectures entitled 'Grammar, Pragmatics and Education Series.' We will have a seminar of Prof. Shoichi Iwasaki from UCLA on July 24th and 25th, on language analysis from the viewpoint of Syntax and Pragmatics. Besides, continuing surveys conducted under the 'Survey on Status of Japanese Language Education in Domestic and Overseas Institute of Higher Education' and the results will be publicized on the Journal of Japanese Studies of ICJS. (Ryuko Taniguchi)

対照日本語部門

Contrastive Japanese Division

データベース:これまでに、日本語とドイツ語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語・中国語との対照研究文献の調査を行い、そのリストに基づいてパイロット版データベースを作成した。今年度はデータベースを試用し、検索・閲覧・新規データの追加などがより効率的に行えるよう改善を図る。

The division has planned the following three directions: 1) A document information database on contrastive research between Japanese and 5 other languages: this year, we try to improve a pilot-version of database easier for research, reference. We also start a document research on English and other languages. 2) Seminars held regularly in July, December and March on contrastive research between Japanese and other languages. 3) Research on Japanese language studies overseas, some countries of north, east Europe. (Takashi Narita)

社会言語部門

Sociolinguistics Division

社会言語部門の事業としては、2013年度はこれまで続けてきた事業を継続し、公開することが中心になる。当初から行ってきた、奄美の瀬戸内町での言語調査、継承言語のための教材作成プロジェクトについては、2012年度に外部資金を得て、映像教材『瀬戸内のシマグチ』の作成を行い、当初の目的であった地元瀬戸内町の中での配布を終えた。今年度は、どのように使っていくかについて地元関係者と緊密に連携をとりながら検討する。6月に映像教材『瀬戸内のシマグチ』に関する報告、奄美の言語事情に関する講演を中心とした研究会を開催し、その内容を複数メディアで記録し、ブックレットなどの形で公開する。昨年度実施した木部暢子氏の講演の記録も同時に収録する予定である。その後、この教材の活用法についての研究会を開催し、同様の研究を行っている機関・研究者とも連携をとった上で、副教材の開発・作成も視野に入れた活用の方法について検討する。そのためには新たに外部資金を獲得することも計画している。

In terms of the research projects for language and production of text book for heritage language in Amami, we have produced a visual material entitled 'Setouchi no Shimaguhi' and finished providing it for Setouchi town as a first objective. In this year, we discuss on how to use the material among local people and in June, organize a seminar to report the production process and linguistic situation in Amami. This seminar and another lecture by Prof. Kibe held at last year will be published as a booklet. On sociolinguistic literature database, after finishing a basic design, we advance it to the next step by arranging the contents with collected data and making the database easier for users, we construct an interface for mobile terminal such as smartphone. (Megumi Sakamoto)

比較日本文化部門

Contrastive Japanese Division

国際連携推進部門

International Cooperation Division

2013年度方針は以下の通り。①「日本語で日本を学ぶ日本の歴史・社会・文化」講義シリーズの映像コンテンツの作成と配信(日本の歴史シリーズ、現代日本社会シリーズ、文化・芸術シリーズ)。さらに昨年度コンテンツした教材の編集。②「日本語を核とした総合的な日本研究体制の構築のための講演会」として、i「〈日本〉に関する〈知〉のフローを追う」公開シンポジウム(科研

プロジェクトとの共催)、ii「漢字文化圏の翻訳語の比較研究」、iii「日西交流400年」記念企画(スペイン史学会との共催、10月26日)、iv「東アジアの民主主義」、v野本京子「日本における『国際日本学』をめぐる動向」報告会を企画する。また、昨年度の国際シンポジウム「日中台のあいだの〈移動〉と〈応答〉」を継承した、日本・中国関係を主題にした講演会も企画中である。さらに、③教科書「国際日本学入門」(仮)のコンテンツ作成に関わっていく。以上を通して、「国際日本研究」の構築とネットワークの形成を図っていきたい。(友常勉)

2013 Joint division plans are as follows: 1) Production and distribution of videos on 'Mini lectures on Studying Japanese History, Society and Culture by Japanese.' 2) Organize Lectures for Construction of Japan Study Regime Centering on Japanese, such as Symposium for Surveying Japan related Knowledge Flow, Comparative Study for Translated Words and Ideas from the west in the Realm of Chinese Character, 400 years Anniversary Project for the Friendship between Japan and Spain (October 26th, 2013), Study for the Political Regime and Democracy of the Post War Period in East Asia, and Lecture by Nomoto Kyoko, entitled Trajectory of International Japan Study in Japan. In addition, joint division participates into the project for producing the textbook of Introduction for International Japan Study. (Tsutomu Tomotsune)

各種行事レポート

Other Reports

公益財団法人博報堂児童教育振興会「第6回日本語海外研究者招聘事業」招聘研究者兼当センター特任研究員による研究発表

オクスナ アサドチフ氏(タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学付属言語学院)

2013年3月6日(水) 18:00-19:00 於留学生日本語教育センター 103教室

テーマ「ウクライナの高等教育機関における日本語教育・日本語教員養成課程のコースデザインの改善—タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学の場合—」: 発表者の勤務校での喫緊の課題である日本語教育・日本語教員養成課程のコースデザインの改善を目指した研究である。現状を分析した上で、東京外国語大学留学生日本語教育センター「JLC日本語スタンダード」、国際交流基金「JFスタンダード」等を参考に、コースデザインの基本的な枠組みについて考察したものである。(坂本恵)

日本語教材『国際日本語入門』(仮) —2014年度内の刊行をめざして

国際日本研究センターでは専任教員を中心に日本語教材『国際日本語入門』(仮)作成のため、既刊のテキストの検討や、教材作成の経験がある近藤安月子氏、山本富美子氏を迎えての研究会など準備作業を続けてきました。この教材は、基本的に国内の留学生・海外の日本語学習者を対象に、全学日本語プログラム600レベルで、日本語中級から上級程度の水準と、文学、歴史、文化、社会、言語など人文科学の分野を対象にしています。本センターの研究活動を踏まえ、さらに留学生日本語教育センターの経験と蓄積、さらに東京外国語大学の特色を生かし、日本人学生との交流授業にも使用できるものをめざしています。2014年度内の刊行を目標に、現在は教員・学習者へのニーズ調査をおこなっています。今後も随時、作成の経過を報告いたしますので、ご注目いただきたいと思います。(友常勉)

ICJS Joint Researcher Workshop



Oksana Asadchih (Taras Shevchenko National University of Kyiv, Ukraine) March 6, 2013. "Design of the Course of Japanese Language Teaching in Advanced Institute of Education in Ukraine"

The title shows an emergent study for course design in the institute that Prof Oksana participates in. Based on the purpose, Prof. Oksana examined the fundamental structure of JLC Japanese Standards. (Megumi Sakamoto)

Towards a Publication of the Textbook, "Introduction to International Japanese Studies"

ICJS has now dealt with a project for publishing a textbook for Japanese Learners. It aims to fulfill demands of learners and teachers and which takes up the subjects such as literature, history, culture, sociology, and linguistics, and corresponds to 600 level of Japanese language class, from middle to advanced level. In order to publish it until March 2015, we now research among faculty members and students in Tufs and accumulate data as essential issues for the textbook. (Tutotomu Tomotsume)

2013年度 活動報告(3月～5月)

Activity Report (Mar-May 2013)

■講演会・ワークショップ等■

●3月2日(土) 社会言語部門主催「奄美大島・瀬戸内町における伝承活動の研究」報告会
前田達朗氏(東京外国語大学)

●3月6日(水) 国際日本研究センター主催特任研究員ワークショップ

オクスナ アサドチフ氏(タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学付属言語学院)

●3月9日(金) 対照日本語部門主催『外国語と日本語との対照言語学的研究』第9回研究会
鷲尾龍一氏(学習院大学教授)、石井哲士郎氏、佐野洋氏(東京外国語大学)

●3月16日(土) 国際日本語教育部門主催「理解・産出における母語の影響への取り組み」国際シンポジウム
秋廣尚恵氏(エクス・マルセイユ大学)、タサニー・メータービスイット氏(タマサート大学)、キャロライン狩野氏、佐野洋氏、榮谷温子氏、小柳昇氏、鈴木美加氏、谷口龍子氏(東京外国語大学)

■会議歴■

●センター会議: 2013年 3月8日、4月18日、5月16日

●部門会議: 2013年 4月15日、5月2日、8日、9日、23日

■Symposiums and Lectures■

●2 Mar.: *Debrief Sessions "The Study of Language Transmission Activities in Setouchi Town, Amamioshima"* by Tatsuro Maeda, Tufs, Japan

●6 Mar.: *The 2nd ICJS Joint Researchers Workshop "An Analysis of Seriously Endangered Languages in Japan; a Case of Amami Go"* by Oksana Asadchih, Taras Shevchenko National University of Kyiv, Ukraine

●9 Mar.: *"Contrastive Study for Japanese and Other Languages" The 9th Research Seminar* by Ryuichi Washio, Gakusyuin University, Tetsushiro Ishii, Hiroshi Sano, Tufs, Japan

●16 Mar.: *International Symposium "Influence of Mother Tongues on Understanding and Production"* by Hisae Akihiro (Aix-Marseille University, France), Tasanee METHAPISIT (Thammasat University, Thailand), Caroline Kano, Hiroshi Sano, Haruko Sakaedani, Noboru Oyanagi, Mika Suzuki, Ryuko Taniguchi, Tufs, Japan

■Meetings■

●Center meetings: 2013- 8 Mar, 18 Apr, 16 May

●Division meetings: 2013- 15 Apr, 2, 8, 9, 23 May

■今後の活動予定■

●6月14日(金) 18:00 ~ 報告会「日本における『国際日本語』をめぐる動向」
報告者: 野本京子氏(東京外国語大学国際日本研究センター センター長)

●6月29日(土) PM 社会言語部門主催 講演会「奄美のシマグチと島唄」(仮)

講演者: 町健次郎氏(奄美市瀬戸内町立図書館・郷土館学芸員)、徳原大和氏(奄美三味線唄者)、前田達朗氏(東京外国語大学)

●7月13日(土) 14:00 ~ 対照日本語部門主催『外国語と日本語との対照言語学的研究』第10回研究会
講演者: 池上嘉彦氏(東京大学名誉教授)、発表者: 金指久美子氏、土屋順一氏(東京外国語大学)

●7月24日(水) 18:00 ~ 国際日本語教育部門主催文法・語用と教育シリーズ講演会『「みかん」構文』
講演者: 岩崎勝一氏(カリフォルニア大学ロサンゼルス校UCLA)

●7月25日(木) 17:40 ~ 国際日本語教育部門主催文法・語用と教育シリーズ研究会「多重文法」
講演者: 岩崎勝一氏(カリフォルニア大学ロサンゼルス校UCLA)

●7月31-8月2日(水-金) 10:00-17:00 国際日本研究センター主催夏季公開セミナー「言語・文化・歴史—国際日本研究の試み」
講師: 趙華敏氏(北京大学外国語学院)中国/ 徐一平氏(北京外国語大学)中国/ 于乃明氏(政治大学)台湾/ 陳明姿氏(台湾大学)台湾/ 金鍾徳氏(韓国外国語大学校)韓国/ 川口健一氏、橋本雄一氏、野本京子氏(東京外国語大学)

●9月6日(金) PM 対照日本語部門主催・日本独文学会共催 講演会「ドイツ語になった日本語」(仮)
講演者: ヴィクトリア・エシュバッハ=サボー氏(エバーハルト・カール大学チュービンゲン)

■Future Events■

●Fri. 14 Jun.(18:00-) *Debrief Session "Current situation of "International Japanese Studies" in Japan"* by Kyoko Nomoto, Tufs, Japan

●Sat. 29 Jun.(pm) *Lecture "SHIMAGUCHI & SHIMAUTA in, Amami" (tentative)* by Kenjiro Machi, Curator, Setouchi Library and Folk Museum, Amami-city, Yamato Tokuhara, Singer and Amami Shamisen Player, Tatsuro Maeda, Tufs Japan

●Sat. 13 Jul.(14:00-) *"Contrastive Study for Japanese and Other Languages" The 10th Research Seminar* by Yoshihiko Ikegami, Honorary Professor of Tokyo University, Kumiko Kanazashi, Junichi Tsuchiya, Tufs Japan

●Wed. 24 Jul.(18:00-) *Lecture "Syntax of Mikan"*

●Thu. 25 Jul.(17:40-) *Research Seminar "Multiple Context-Free Grammar"* by Shoichi Iwasaki, UCLA, U.S.A.

●Wed.-Fri. 24 Jul.-2 Aug.(10:00-) *Summer Seminar 2013 "Language, Literature, History: Approach to a Construction of International Japanese Studies"* by ZHAO Hua Min, Peking University; XU Yi Ping, Beijing Foreign Studies University; YU Nai Ming, National Chengchi University; CHEN Mung Tzu, Taiwan University; KIM Jong Duck, Hankuk University of Foreign Studies; Kennichi Kawaguchi, Yuichi Hashimoto, Kyoko Nomoto, Tufs

●Fri. 6 Sep.(pm) *Lecture "Japanese Loan Words in German Language" (tentative)* by Viktoria Eschbach-Szabo, Eberhard-Karls-Universität Tübingen, Germany

ジャーナル『日本語・日本学研究』論文公募のお知らせ

Call for papers "Journal for Japanese Studies"

●日本の文化・社会・歴史並びに日本語・日本語教育に関する研究論文(20ページ程度、400字×60枚)、海外の研究動向・研究潮流の紹介(20ページ程度)、研究ノート(10ページ程度)、書評(1ページ)

●原稿の書式: 寄稿・投稿論文は日英いずれかの言語とする。日本語論文には、英語の概要(300語程度)、英語論文には日本語の概要(800字程度)をつける。

●投稿エントリーとエントリー締め切り: 論文の投稿を希望する場合は、指定の期日までに、下記編集委員会アドレスにEメールで投稿予定の旨を連絡すること。メール本文には、氏名・論文の題名(仮題でもよい)・所属機関名(該当者のみ)、および連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を明記すること。また、メールのSubject(件名)には「[日本語・日本学研究]投稿希望」と記入すること。

●公開、複製、公衆送信に関する権利: 掲載された論文等の公開、複製、公衆送信の権利は、本センターに帰属する。本誌に発表されたものを転載する場合は、その旨を編集委員会に連絡して承認を得るとともに、当該論文等の初出を明示すること。また、掲載された論文等は本センターのHP上で公開される。

【指定期日】 投稿希望連絡締め切り 2013年7月19日必着

投稿論文締め切り 2013年9月末日必着

【連絡先】 東京外国語大学 国際日本研究センター『日本語・日本学研究』編集委員会

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電話/ FAX: 042-330-5794 E-mail: icjs-editorial@tufs.ac.jp

URL: http://www.tufs.ac.jp/common/icjs

●Topics: Research article on Japanese culture, society, history, language, and language education (double space, approx. 20 pages.) international research trends (approx. 20 pages.) research report (approx. 10 pages.) book review (1 page.)

●Format: The articles may be written in Japanese or English. For articles in Japanese, attach a summary in English (approx. 300 words,) and for articles in English, attach a summary in Japanese (approx. 800 letters.)

●Policy Acknowledgement: All rights relating to the publication, reproduction, and public transmission of the articles published on the journal shall belong to the International Center for Japanese Studies. Any contents shall not be reproduced without showing the credit, first appearance of the article, nor the express written permission given by the editorial committee. In addition, the articles of the journal will be published online at http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/en/.

【Deadlines】 Deadline for Journal entry is July 19th, 2013

Deadline for Submission is September 30th, 2013

【For further information, please contact】

International Japan Studies Editorial Committee,
International Center for Japanese Studies, Tokyo
University of Foreign Studies

3-11-1, Asahi-cho Fuchu-shi, Tokyo 183-8534 Japan
Telephone and Fax: +81 (0) 42-330-5794

E-mail: icjs-editorial@tufs.ac.jp

URL: http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/